

子どもの会話に耳を傾けてみよう★

保護者の皆様は、日々子どもと向き合いながら仕事もして、の両立…本当に大変ですよ！?
先日、ある冊子で『子どもを“丸ごと受け止める”会話とは』という内容のコラムを読みました。
そのメッセージが「ぜひ保護者の皆様にも伝えたい」と思うものだったので、シェアさせていただきますね。
今年度も残り3ヶ月。

日々の生活は繰り返しが多いですが、振り返ってみると一年はあっという間で、子どもの成長も早いものですね。

子育ての悩みって、大なり小なりあるかと思いますが、子どもの年齢や性格などによって感じるところも、さまざまではないでしょうか。

その家庭（保護者）によって違いがあるのも興味深いですし、そこがいいのでしょうか。

今回のコラムは親子の会話について書いてありました。

子どもと会話していると「つい口を挟んでしまった」「まだ言いたいことありそうなのに、話してくれない」ということもあるのではないのでしょうか。

そして、子どもの話を聞きたくてついつい、以下のようなことをしていないのでしょうか？

↓↓↓

① 親が聴きたい話だけを話させる

子どもが今日あったことを話しているのに「保育園どうだった？」「何して遊んだの？」などと、親が知りたいことだけを聴く。

② 適当なあいづちで聴き流す

忙しい時に、視線を合わさずに返事やあいづちをしながら聴き流す。

③ 子どもの話を乗っ取る

話している途中なのに言葉遣いの間違いを正したり、「こういうことね」と話をまとめる。

④ 子どもに指示やお説教をする

話に関心があることがあると、「ダメじゃない」「こうすればよかったのに」と指示、お説教をする。
こうした会話では、親がどれだけ子どもの話を聴いたつもりになっていても、子どもは「自分の伝えたいことを受け止めてもらった」という感覚は得られません。

親がついつい指示やアドバイスをしてしまうのは、「子どもが困らないように」「このようになってほしい」など愛情や強い欲求からで、その気持ちはわかります。

しかし、まずは子どもの話を最後まで聞き、気持ちや感情を受け止めてあげましょう。

例えば友達とトラブルがあった時、子どもが感情を吐き出して落ち着くことが出来れば、相手（友達）との関係を考えて一番よい道を自分で見つけられます。

そして感情を受け止めてもらった後なら、親の気持ちも伝わりやすくなります。

一方、子どもが発した言葉で親も傷ついたと感じたら、「今のショックだったな」とそのまま言葉にしましょう。

人間は感情の幅が大きい動物で、感情のやり取りを通じて子どもも大人も成長すると思います。

親が伝えたいことを繰り返すよりも、子どもの話をしっかり受け止めることで、より子どもの能力を育てることに繋がると思うので、じっくり聞く時間も大切にしてみてくださいね。

（宮本）